

色彩の採取方法

色彩検討には色の採取が欠かせません。色の採取とは対象物の色をはかり収集することです。色の採取は信頼できる見本を用いて行いますが、難しく感じる場合は巻頭の「福岡の色」の頁に色見本とその数値を記載していますので参考にし、近い色と照合してください。

1 準備

地図で確認する

色のものさし

日本塗料工業会塗料用
標準色見本帳（ポケット版）



JIS 標準色票



地図



カメラ



筆記用具



地図で視点場をチェックしましょう

地図上で対象物が見えることが予想される視点場をあらかじめチェックしておきましょう。

地図で周辺の特徴的なものをチェックしましょう

周辺に景観資源となるもの、景観に与える影響の大きなもの等がないか、事前に地図でチェックしておきましょう。
(例 歴史的な建物, 大型団地等)

※色のものさしについて

色彩を採取し、記録するためには色のものさしが必要です。通常、以下の色見本帳が色のものさしとして使われています。

- ・ JIS 標準色票は、JIS 規定に基づいた正確な色見本です。マンセル表色系に準拠し、色相別に明度（縦軸）、彩度（横軸）に対応した色見本が配置されています。
- ・ 日本塗料工業会塗料用標準色見本帳（ポケット版）は、塗料用の色見本帳ですが、コンパクトで携帯しやすくマンセル表色系の値が明記されています。無彩色（N）から始まり、R から、YR…RP までの色相順に色見本が並べてあり、同じ色相内では明度順に、同じ明度内では低彩度から高彩度の順に色見本が配置されています。

印刷用につくられた色見本帳は使用できません。

2 現地調査①

視点場から確認する



視点場から確認しましょう

あらかじめ地図でチェックした視点場へ移動し、下記の点を確認しましょう。（視点場は1カ所とは限りません。特に幹線道路沿い、川沿い、海の近く、田園地帯等は視界が広がるためさまざまな場所から見られる可能性があります。それらの視線を意識して視点場を選びましょう）

色を採取しましょう

3 現地調査②

対象物の色を採取する



対象物の色を採取しましょう

対象となる建物等が現存する場合は、対象物の色を調べましょう。

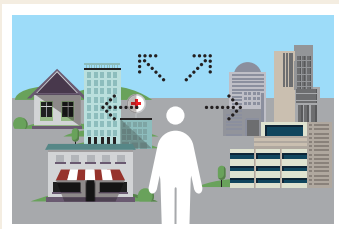
対象物の現在の色を把握し、その見え方を参考にします。
色を調べる部位：外壁を中心に、屋根、塀、門扉等
写真を撮って記録しましょう。

色の調べ方

- ・色を調べたいものに直接色のものさしを当てて比較し、最も近い色を選び、その数値を記録します。
- ・太陽光が強くあたり、反射して色見本と比較しにくい場合は日陰の部分調べましょう。
- ・手が届かないものや遠くの山等の色の採取は色のものさしをかざして比較します。

4 現地調査③

周辺のものを確認する



周辺の色を採取しましょう

対象物の周辺の建築物等の色を調べましょう。

周辺にある特徴的なものの色を採取しましょう

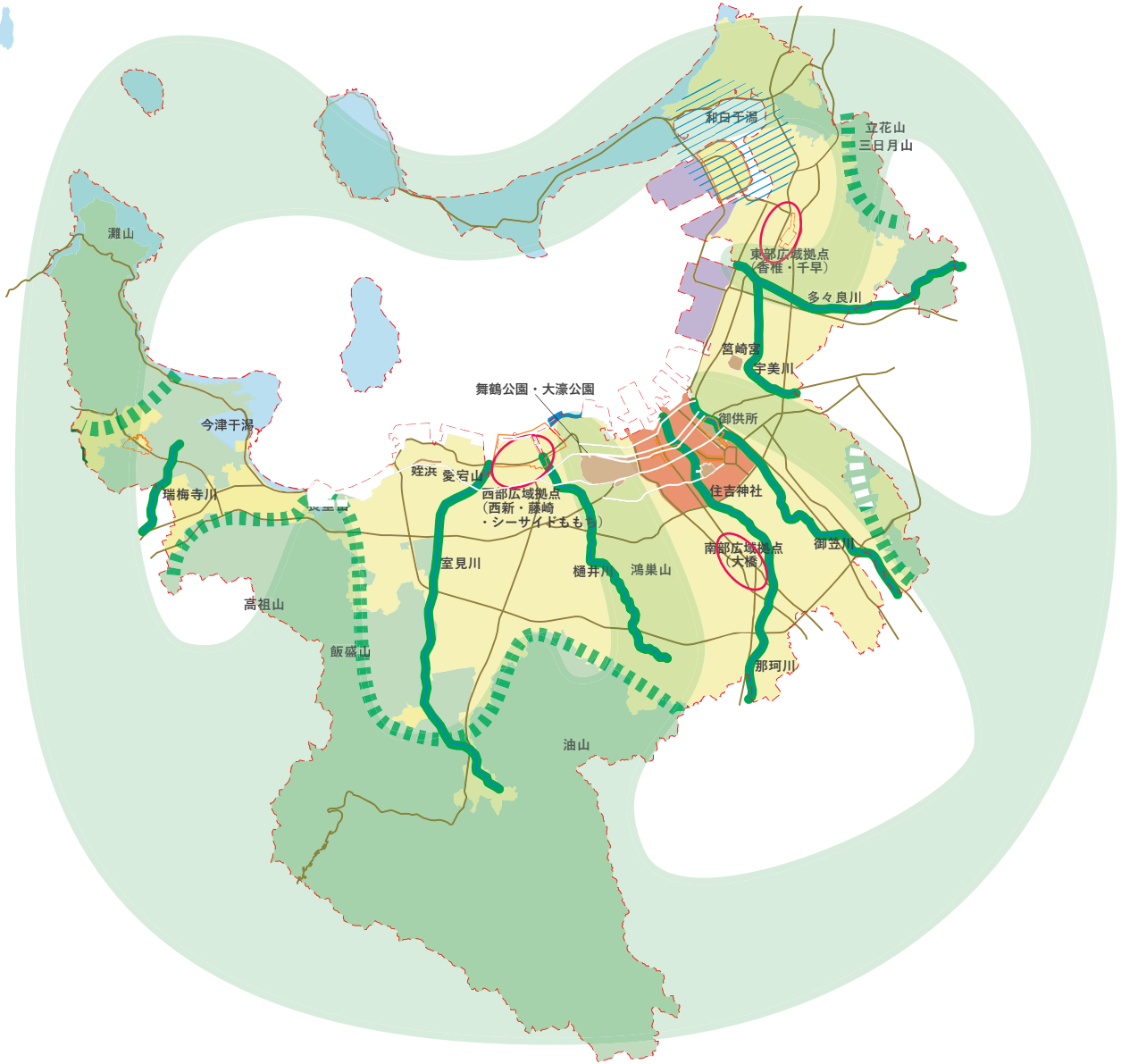
周辺に景観的に特徴的なものがある場合はその色を調べましょう。

背景にあるものを確認しましょう

周辺から見た時対象物の背景に見えるものは何か確認し、色を調べましょう。

写真を撮って記録しましょう

P46 一般市街地ゾーン内の特例資料



- 1 都心ゾーン
- 2 一般市街地ゾーン
- 3 山の辺・田園ゾーン
- 4 海浜ゾーン
- 5 港湾ゾーン
- 6 歴史・伝統ゾーン
- 景観形成地区

◎景観計画に位置付けのあるもの

- 河川景観軸
- 沿道景観軸
- 広域拠点

◎その他配慮すべきもの

◇緑の基本計画に定めのあるもの

- 森の緑地環
- 緑の腕
- 緑の水脈 (= 河川景観軸)
- 山すそ緑地

◇都市計画に定めのある地域地区 (自然景観に関わるもの)

- ・風致地区
- ・特別緑地保全地区

◇地域の個性・風土として特に配慮が必要なもの

- ・開けた水辺 (景観軸以外の河川, 干潟, ため池, 海浜)
- ・伝統的様式 (レンガ, 板塀, 町屋など)
- ・象徴的建造物等 (神社, 石碑, 公園, 保存樹など)

色当てクイズ

みなさんがよく知っている物の色はどんな色か考えてみましょう。

Q1 市役所外壁タイルの色



Q2 クロガネモチの葉の色 (福岡市の木)



Q3 土の色



Q4 レンガの色 (重要文化財／赤煉瓦文化館)



Q5 自動販売機の色



機 景 01=B 02=D 03=C 04=B 05=C

福岡の景観構成要素

採取色による代表色（色見本）番号／マンセル値

空、山、海、島

n1 2.5BG6.5/2	n2 2.5BG7/2	n3 10B7.5/2	n4 2.5PB7/3	n5 2.5BG6/3	n6 5BG6/1
n7 10B6/3	n8 7.5B7/2	n9 7.5GY4/3	n10 7.5GY4.5/4	n11 10B5/2	n12 10B5.5/2

植物（緑葉）

n21 5Y5.5/4	n22 3GY5/5	n23 4GY4.7/5	n24 5GY5/5	n25 10YR5/4	n26 2.5GY4/5
n27 5GY4/4	n28 5GY4/6	n29 10R3/5	n30 2.5GY3/4	n31 5GY3/4	n32 6.5GY2.7/5

植物（紅葉・枯葉）

n41 10R5/10	n42 2.5YR6/8	n43 7.5YR6/10	n44 7.5R4/8	n45 7.5R4/11	n46 2.5YR5/10
n47 7.5YR5/10	n48 5R3/6	n49 7.5R3/8	n50 10R3/6	n51 5YR5/8	

植物（黄葉・枯葉）

n61 5YR6/6	n62 10YR7/10	n63 2.5Y8/10	n64 5Y8/10	n65 5YR5/6	n66 7.5YR5/6
n67 2.5Y7/12	n68 5Y7.5/7	n69 5YR4/6	n70 5YR4/5	n71 10YR6/9	n72 2.5Y5/8

文化（博多織 五色献上）

c1 10R3/5	c2 2.5Y6/4	c3 7.5GY4.5/5	c4 7.5B3/2	c5 5RP4/2	c6 2.5R7/4
c7 10YR6/4	c8 2.5G5.5/4	c9 5PB3/5	c10 10RP5/4		

文化（博多塀意匠）

w1 7.5YR6/2	w2 7.5YR6/4	w3 10YR6/2	w4 2.5Y6/3	w5 10YR7/3	w6 5YR4/3
w7 2.5YR4/5	w8 5YR7/2	w9 10YR5/2	w10 10R5/1	w11 10R4/3	w12 10R5/6
w13 7.5YR4/2	w14 10YR4/1	w15 5YR4/1	w16 10R6/1	w17 2.5YR5/3	w18 7.5YR7/1
w19 2.5Y7/1	w20 5YR6/1				

「福岡の色」色見本

福岡の景観構成要素

採取色による代表色（色見本）番号／マンセル値

石、砂、土

海辺の石

L1	L2	L3	L4	L5	L6
7.5YR8/1	2.5YR7/4	5YR8/3	7.5B6/1	10GY5/1	7.5B4/1
L7	L8	L9	L10	L11	L12
10YR7.5/1	7.5YR8/2	10YR9/1	5G7/1	10G6/2	2.5PB3/1

石、砂、土

海辺の砂・川の砂

L21	L22	L23	L24	L25	L26
10YR7/2	10YR7.5/1.5	10YR7.5/3	10YR7/3	7.5YR6/2	10YR6/3
L27	L28	L29	L30	L31	L32
7.5YR7/3	10YR6.5/2	2.5Y6.5/2	10YR7/4	10YR6.5/3	10YR6/4

石、砂、土

土・田畑の耕作土

L41	L42	L43	L44	L45	L46
5YR7/4	5YR6/6	7.5YR7/4	10YR6/3	10R5/8	2.5YR4/6
L47	L48	L49	L50	L51	L52
10R6/8	5YR5/5	10YR6/2	2.5Y5.5/2	7.5YR5/4	2.5Y4.5/2

建築物壁面

木材・土壁・漆喰

a1	a2	a3	a4	a5	a6
2.5Y8/3	7.5YR3/4	7.5YR7/4	10YR6.5/1	10YR9.2/0.5	N3
a7	a8	a9	a10	a11	a12
7.5YR4/2	7.5YR5/2	5YR4/1	5YR3/1	10YR4/1	7.5YR5/1

建築物や塀

赤レンガ・赤瓦・日干しレンガ

a21	a22	a23	a41	a42	a43
2.5YR6/5	5YR5/6	10R5/5	2.5Y6.5/2	N5	2.5Y6.5/1
a24	a25	a26	a44	a45	a46
10R4/4	10R4/5	2.5YR4/6	10YR4/1	2.5Y7/2	N4
a27	a28	a29	a47	a48	a49
10R3/4	2.5YR4/5	2.5YR5/5	5YR5/3	5PB4/1	10YR6/2

基礎石・灯籠等工作物

a60	a61	a62	a63	a64	a65
10YR7.5/1	7.5YR5/2	7.5YR4/1	2.5Y6/1	10YR7/1	10YR7/2

黄砂

s1	s2	s3	s4
2.5Y6/1	10YR7.5/1	10YR7.5/2	1Y7.5/1

彩度 1

彩度 2

色相	PB 青紫系	5PB													
		2.5PB													
	B 青系	10B													
		7.5B													
		5B													
		2.5B													
	BG 青緑系	10BG													
		7.5BG													
		5BG													
		2.5BG													
G 緑系	10G														
	7.5G														
	5G														
	2.5G														
GY 黄緑系	10GY														
	7.5GY														
	5GY														
	2.5GY														
Y 黄系	10Y														
	7.5Y														
	5Y														
	2.5Y														
YR 黄赤系	10YR														
	7.5YR														
	5YR														
	2.5YR														
R 赤系	10R														
明度	無彩色														

カラーパレット
色見本の見方
マンセル値 5YR7/2 の例



15-70D 7/2

各色相 (例: 5YR) の明度/彩度

日本塗料工業会 塗料用標準色色票番号

彩度 3

色相	Y 黄系	10Y						
		7.5Y						
		5Y						
		2.5Y						
	YR 黄赤系	10YR						
		7.5YR						
		5YR						
		2.5YR						
	R 赤系	10R						
	明度	無彩色						
N-40 N4-			N-50 N5-	N-60 N6-	N-70 N7-	N-80 N8-		

彩度 4

N-40 N4-	N-50 N5-	N-60 N6-	N-70 N7-	N-80 N8-

調和色選定の考え方

調和色選定に至るまでの考え方を以下にまとめました。→分布図の見方は次項参照

景観計画の色彩基準の根拠を示す「福岡の色」

景観計画の都心ゾーン、港湾ゾーンとその他のゾーンの低層部分の色彩基準の彩度は、樹木のみどりを基準に緑葉の範囲を超えない 6 と規定されていますが、今回の調査により樹木のみどりに加えて、石・砂・土・壁・レンガ等自然の色の多くが彩度 6 以下であることを確認しました。（紅葉の色は例外として彩度 6 を超えています）

調和色選定の手がかり

景観計画では「一般市街地、山の辺・田園、海浜の各ゾーンの色彩基準」と「都心ゾーン、港湾ゾーンの色彩基準」の 2 種類があります。前者は住宅や自然が多いゾーン、後者はにぎわいや活気が必要なゾーンで、色彩基準が異なり後者の色彩基準範囲の方が広く設定してあります。

両者の色彩基準範囲のうち中心となるのが「色相 10R から 2.5Y で彩度 4 まで」の範囲です。それは「福岡の色」の色相の多くが 10R から 2.5Y の範囲に多く分布していることに関連しています。彩度についてもこの色相範囲は彩度 4 までが中心となります。この色相 10R から 2.5Y で彩度 4 までの範囲を「景観計画の色彩基準の中心となる範囲」とします。

P69 の図は色相と彩度により「福岡の色」の分布状況をまとめたものです。

この中の左図は、今回色彩ガイドラインを策定するにあたって調査した「自然景観を構成する色」の分布図、右図は「風土基盤を構成する色」と「建物の歴史の色」の分布図です。この「福岡の色」の分布図と「景観計画の色彩基準の中心となる範囲」を手がかりとして調和色の選定を行いました。

調和色への道筋（調和色の選定）

色彩調査で採取した「福岡の色」を背景の色（地色）とし、その背景と建築物等の色の関係がお互いに引き立てあう様な調和の関色の色彩を取り出して調和色を選定します。

①色相範囲の考え方

調和色は、「景観計画の色彩基準の中心となる範囲」で「福岡の色」の中で特に「風土基盤を構成する色」と「建物の歴史の色」に重なる 10R から 2.5Y の範囲を基本にして、自然の植物との類似性やなじみ性を高め、お互いを引き立てあうことから緑葉の中心色相 5GY までの範囲を基準とします。

②彩度範囲の考え方

P70 の図は、調和色の彩度範囲選定の考え方を示したものです。右図の赤の点線で囲んだ「風土基盤を構成する色」と「建物の歴史の色」の彩度の分布範囲は、「景観計画の色彩基準の中心となる色相 10R から 2.5Y で彩度 4 までの範囲」におさまっています。

一般に、彩度は色相に関わらず彩度の高い色があるとその色に目を奪われ、まわりにある色の彩度がかすんだり美しく見えない傾向があります。左図の「自然景観を構成する色」の彩度の分布状況を見ると、中心となるのは彩度 4～6 ですが、たとえば植物の緑葉には彩度 4 以下のものもあるなど自然の色は多様で幅があります。自然景観と建築物等は互いを引き立て合う関係であることが望ましいため、調和色の彩度範囲は「自然景観を構成する色」の分布状況に合わせ、色相 10R から 2.5Y は彩度 3 までに、色相の考え方にもとづいて範囲を拡大した 5GY までの範囲は彩度 2 までに調整し、図の青で囲われた範囲とします。

③明度範囲の考え方

P71 の図は、色相と明度により「福岡の色」の分布状況を、P72 の図は調和色の明度範囲選定の考え方を示したものです。

調和色は「自然景観を構成する色」の明度範囲の 3～8.5 をベースにしますが、自然は紅葉等四季や場所に応じ変化しますので、安定した緑葉や比較的变化の少ない「風土基盤を構成する色」や「建物の歴史の色」の明度の分布状況からその範囲の中心的な明度範囲の 4～7.5 に調整します。

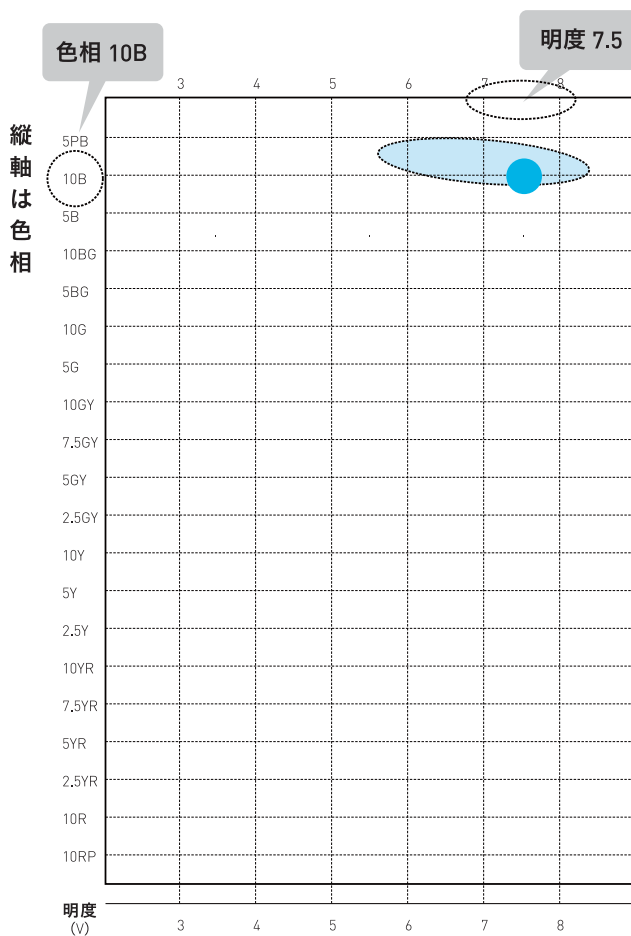
色彩分布図の見方

色彩には3つの属性がありますので、色彩分布図は色相-明度、色相-彩度の2つの分布図を1セットで色を表します。

空の色 10B7.5/2 は分布図でどこに位置するか見てみましょう。

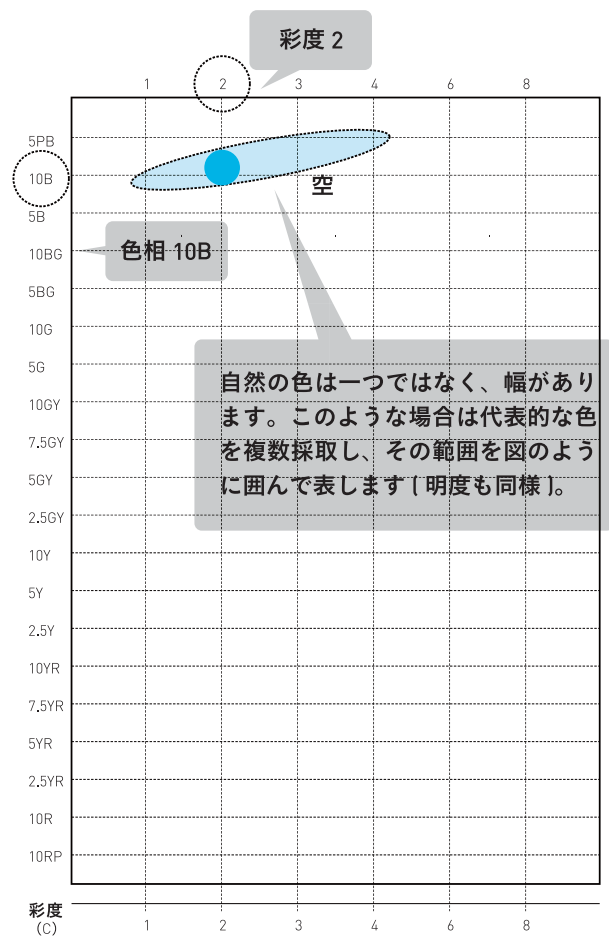
(青マル ● が 10B7.5/2 の位置です)

色相-明度の分布図



横軸は明度 (右にいくほど明るくなります)

色相-彩度の分布図



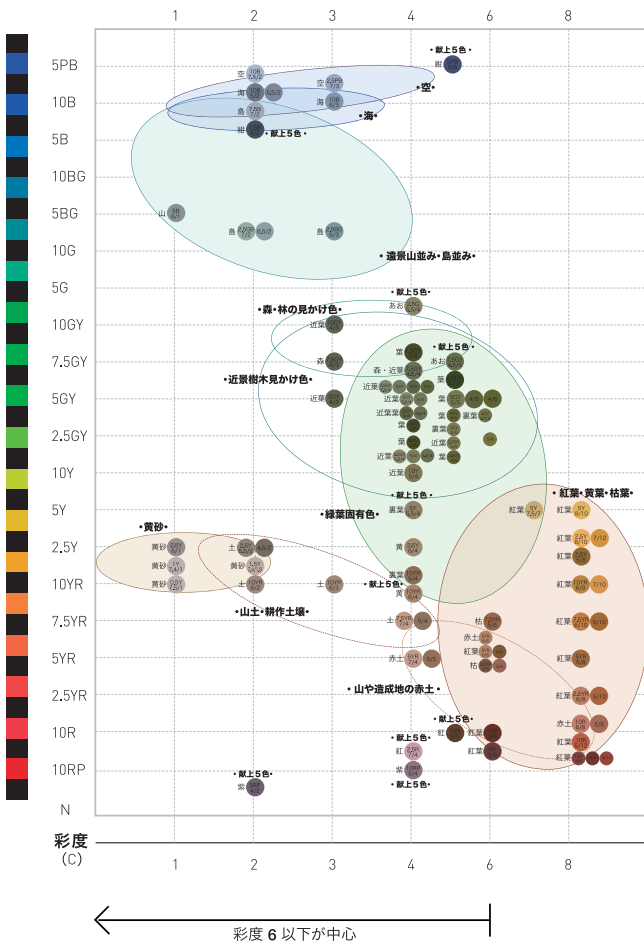
横軸は彩度 (右にいくほど色みが強くなります)

「福岡の色」の色彩分布図（色相—彩度）

「福岡の色」の色相と彩度による分布図です。左の図が「自然景観を構成する色」、右の図が「風土基盤を構成する色」と「建物の歴史の色」を合わせた分布図となっています。「福岡の色」の色相の多くが10Rから2.5Yの範囲に多く分布し、植物の緑の5GYまで広く分布していることが分ります。彩度については、紅葉の色を省き彩度4までが中心となり、部分的には植物や赤土、赤レンガの彩度6までの分布を確認することができます。

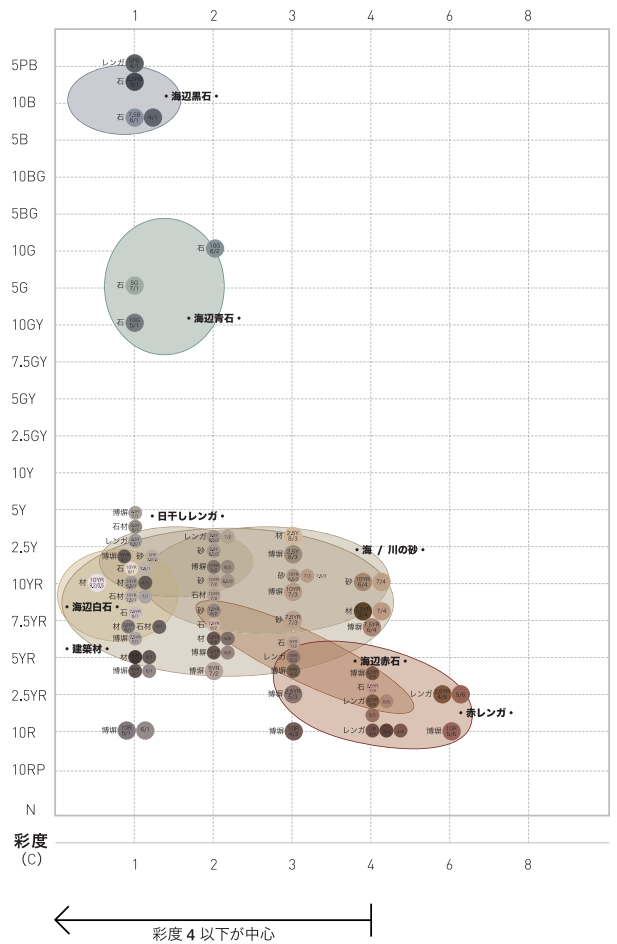
色相—彩度 分布図

○ 自然景観を構成する色 ※一部、土、黄砂五色献上含む

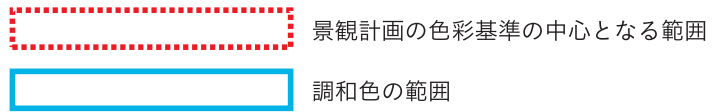


色相—彩度 分布図

○ 風土基盤を構成する色・建物の歴史の色

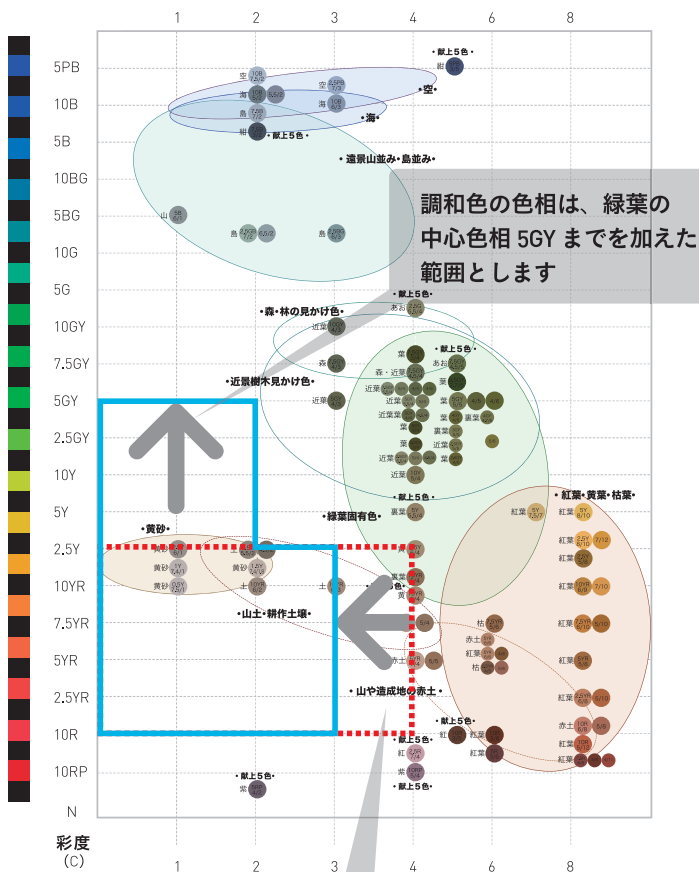


調和色の考え方（色相－彩度）



色相－彩度 分布図

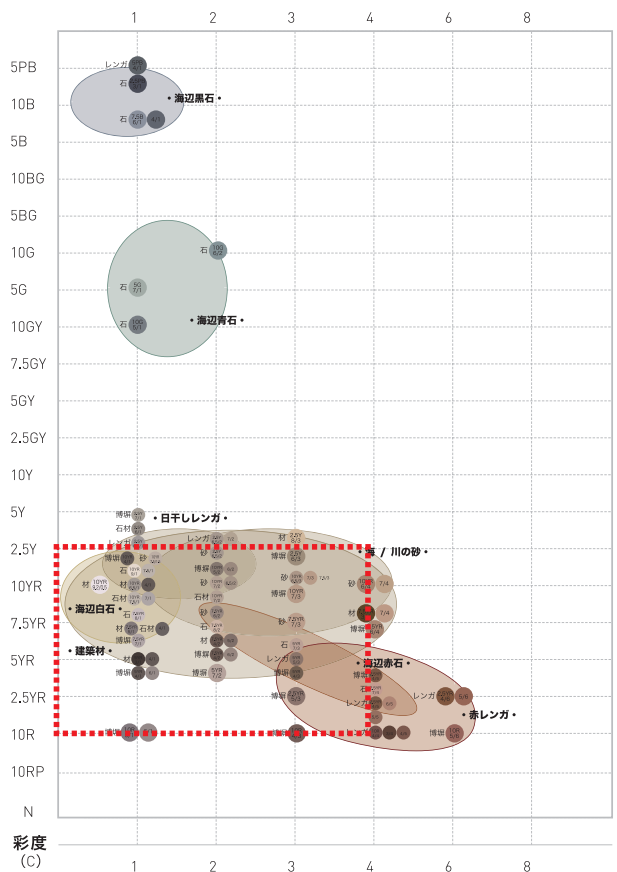
○ 自然景観を構成する色 ※一部、土、黄砂五色献上含む



調和色の彩度は、自然の植物を引き立てるため多様な植物の彩度を超えない彩度 3 以下とします。

色相－彩度 分布図

○ 風土基盤を構成する色・建物の歴史の色



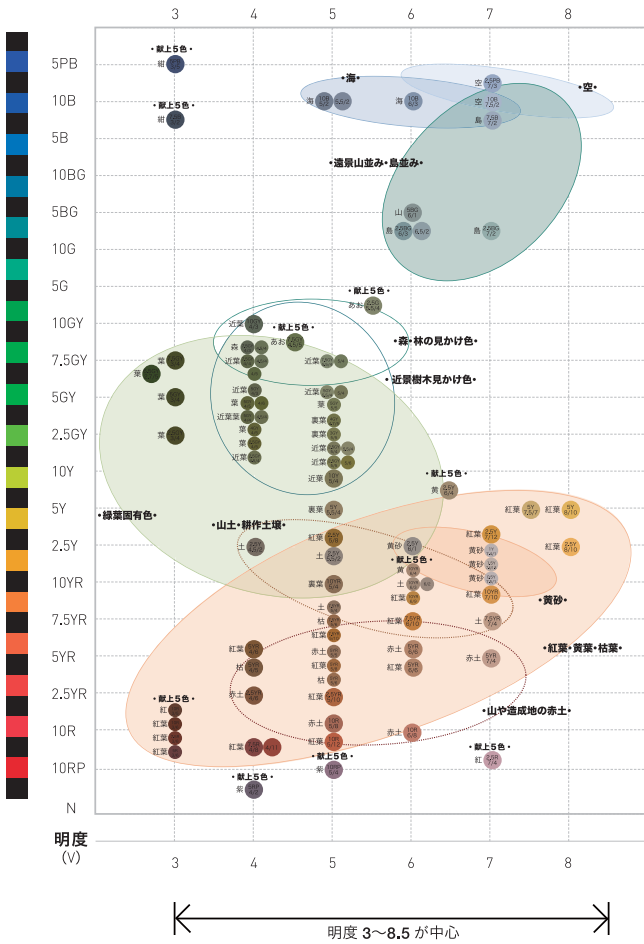
「福岡の色」の色彩分布図（色相－明度）

「福岡の色」の色相と明度による分布図です。

左の図の「自然景観を構成する色」、右の図の「風土基盤を構成する色」と「建物の歴史の色」とともに、「福岡の色」の明度の範囲は3～8.5に広く分布しています。

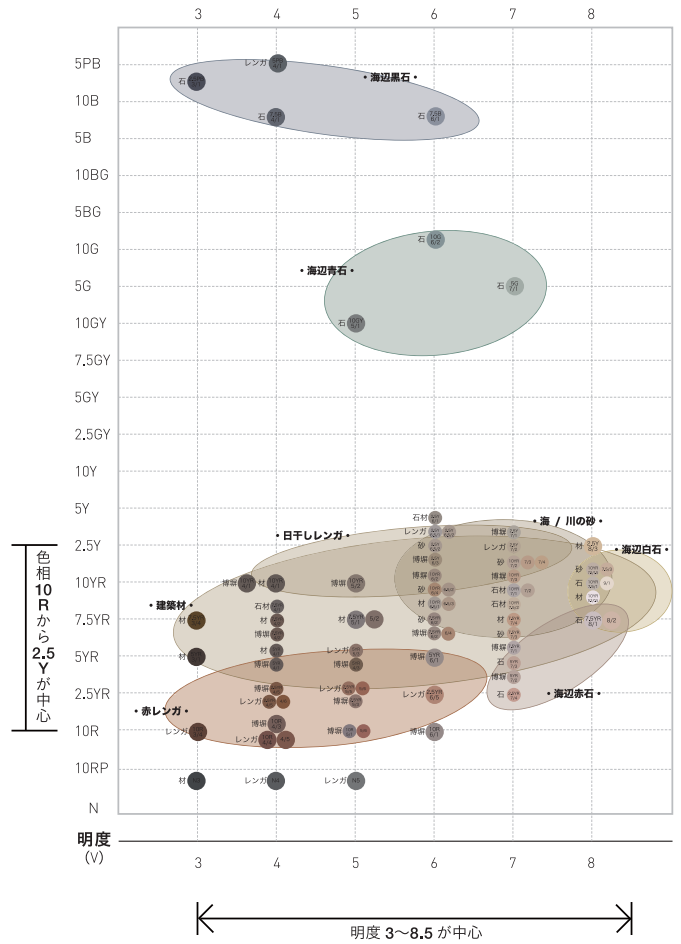
色相－明度分布図

○ 自然景観を構成する色 ※一部、土、黄砂五色献上含む



色相－彩度分布図

○ 風土基盤を構成する色・建物の歴史の色

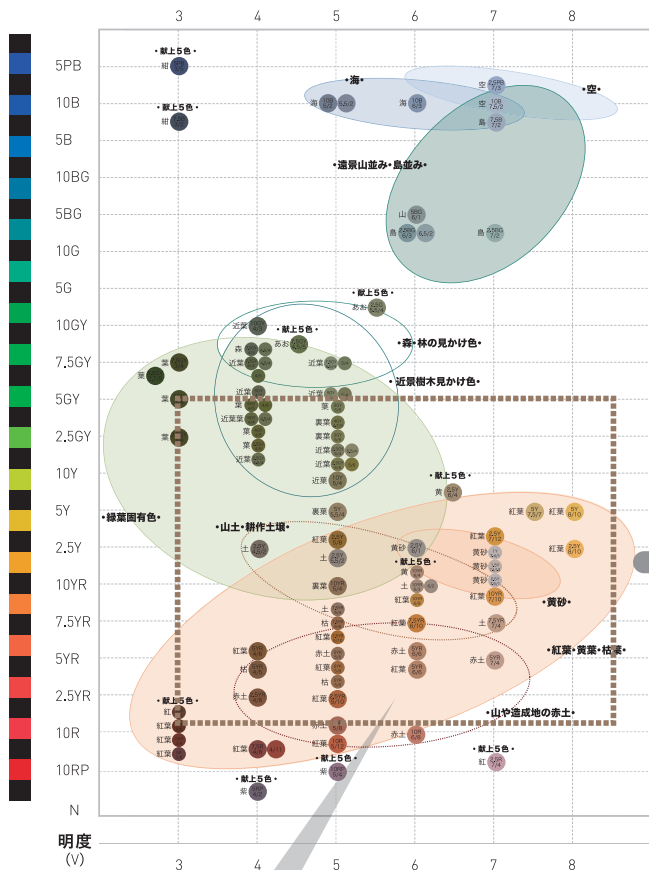


調和色の考え方（色相－明度）

 調和色の範囲

色相－明度 分布図

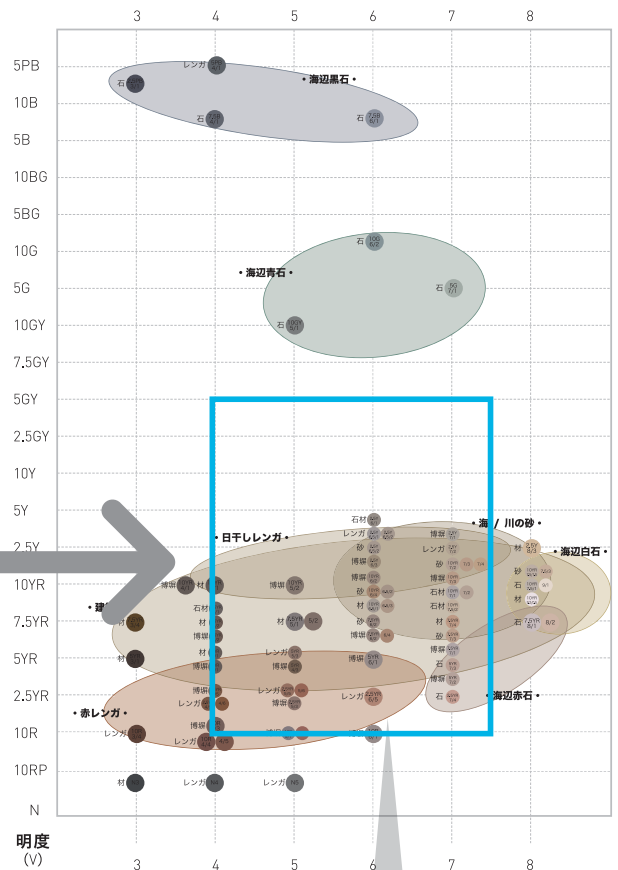
○ 自然景観を構成する色 ※一部、土、黄砂五色献上含む



「自然景観を構成する色」をはじめ「福岡の色」の明度範囲は明度 3～8.5 をベースに広範囲に及びます。

色相－彩度 分布図

○ 風土基盤を構成する色・建物の歴史の色



調和色は、「風土基盤を構成する色」や「建物の歴史の色」の明度範囲の中心的な範囲に設定します。明度 4～7.5

色相・明度・彩度の考え方まとめ

色相は、風土基盤の色相範囲をベースに、自然の色の植物との関係性を考慮した色相範囲とします。

風土基盤を構成する土、砂、および木材の色は建物の歴史の色でもあり、その色相範囲は、10R~2.5Yです。また、調和色の色相は「景観計画の色彩基準の中心となる範囲」に加え、デザインの自由度を高めるため、5GYまで範囲を広げます。5GYまでの色相は樹木の緑葉の中心色相であり、調和色は植物よりも彩度を低くすることで調和感が得られます。

明度は、背景となる自然等と同程度の見え方となる明度範囲とします。

「風土基盤を構成する色」や「建物の歴史の色」の中心な明度範囲 4~7.5 を基準に、落ち着いて見せたい場合はその範囲内の低めの明度を、変化性を求める場合は明るめの明度を場所に依りて検討することとします。「自然景観を構成する色」は変化性が大きいため、背景とする自然と同程度の見え方となる明度 3~8.5 の範囲に広げ、建築物等が置かれた地域や現場の状況により選定します。

彩度は、自然等との関係性から低めの彩度を用い、場所に依りて調和がはかれる彩度範囲とします。

彩度は自然の色、具体的には植物の色（葉および紅葉）より彩度を低くし、自然の色の鮮やかさを引き立てるようにします。緑葉や紅葉等四季の色の变化も考慮してその関係から色相の10R~2.5Yで彩度3以下、植物の色に近い色相の2.5Y~5GYは彩度2以下、を基準とします。

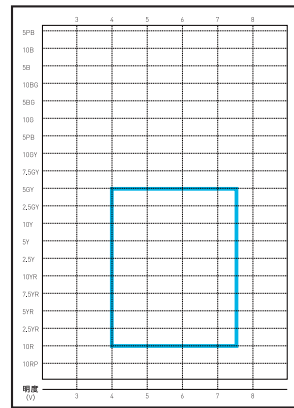
色彩ガイドラインの基本調和色

調和色への道筋から導かれる、色彩範囲を福岡の中庸な一般的地域で推奨範囲とし、これを色彩ガイドラインの基本調和色とします。この基本調和色範囲を元に、各ゾーンの調和色を選定します。

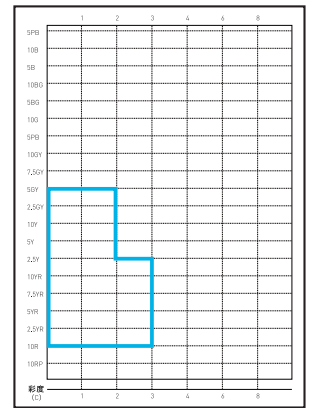
色相 10R~2.5Y
明度 4 以上~7.5 以下、彩度 3 以下
色相 2.5Y~5GY の範囲
明度 4 以上~7.5 以下、彩度 2 以下

→ 色彩ガイドラインの基本調和色

色相-明度



色相 - 彩度

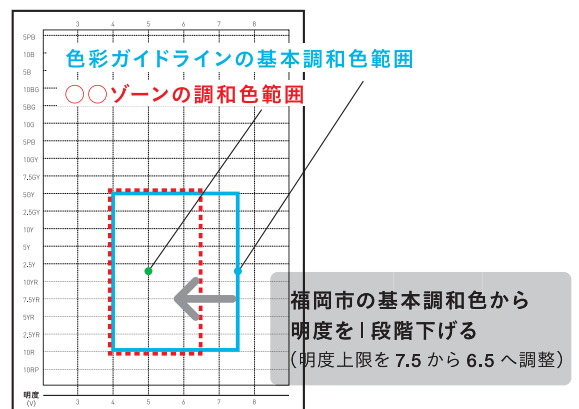


色彩ガイドラインの基本調和色をもとにした調整について

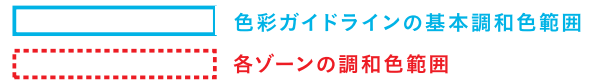
色彩ガイドラインの基本調和色は中庸な一般的地域で推奨できる範囲を設定しています。この色範囲は景観計画の6つのゾーンのうち一般的な福岡の姿を示す「一般市街地」ゾーンの調和色範囲として使用します。

その他のゾーンの調和色範囲は基本調和色をもとに、それぞれのゾーン景観の特性に照らせ合わせて調整を行い、設定します。

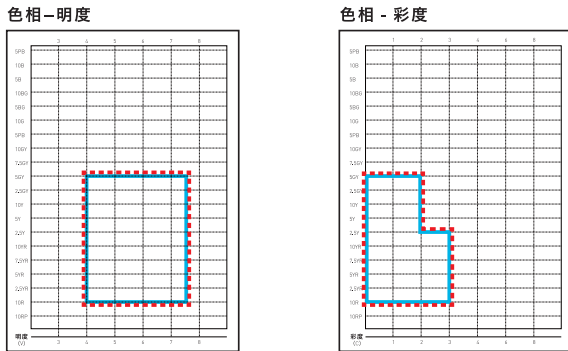
例：○○ゾーンの調和色範囲はやや落ち着いた色が望ましい場合
↓
福岡市の基本調和色より明度を1段階低くし、やや暗く設定します。
(明度 7.5 から 6.5 に調整します)



各ゾーンの調和色範囲の設定

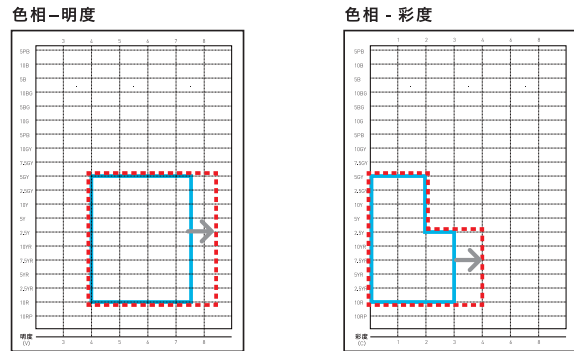


一般市街地ゾーン



色彩ガイドラインの基本調和色の範囲であり、中庸な一般的地域で推奨できる範囲です。この範囲を基本として、他のゾーンの調和色を調整します。

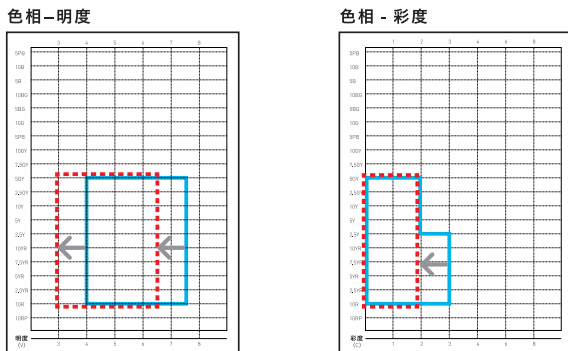
都心ゾーン



一般市街地に比べ、自然の色が背景となる度合いが小さく、にぎわいを演出する観点から色相 10R~5GY の範囲の明度の上限を 1 段階上げます。

明度と同様に、色相 10R~2.5Y の範囲の彩度を 1 段階上げます。

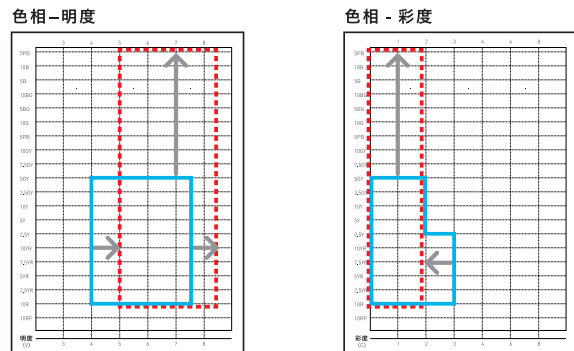
山の辺・田園ゾーン



一般市街地に比べ、より落ち着いた自然の色が背景となる度合いが大きいためから明度範囲を全体に 1 段階下げます。

一般市街地に比べ、より落ち着いた自然の色が背景となる度合いが大きいためから色相 10R~2.5Y の範囲の彩度を 1 段階下げます。

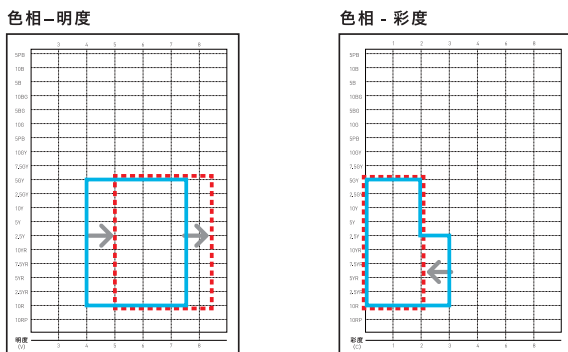
港湾ゾーン



一般市街地に比べ、海辺の砂、海や空の明るさとの調和から海浜ゾーンと同じく、明度範囲を全体に 1 段階上げます。

遠景の山並みや後背市街地が背景となることから、色相範囲を 5PB まで広げるとともに、色相 10R~2.5Y の範囲の彩度を 1 段階下げます。

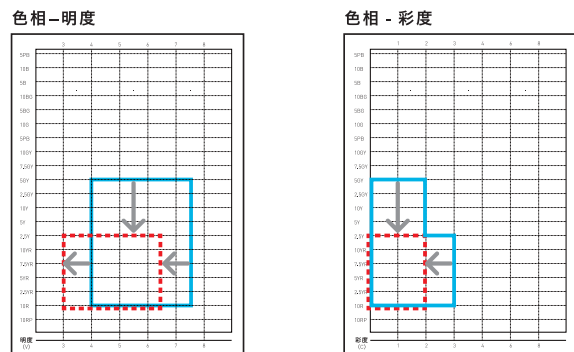
海浜ゾーン



一般市街地に比べ、海辺の砂、海や空の明るさとの調和から明度範囲を全体に 1 段階上げます。

山の辺・田園ゾーンと同じ。

歴史・伝統ゾーン



自然素材を材料とした伝統意匠の落ち着いた色と調和するよう、色相は 10R から 2.5Y までとし、明度範囲は自然素材の明度に合わせて 1 段階下げます。

自然素材の低い彩度に調和するよう 1 段階下げて彩度 2 以下とします。

お問い合わせ先

福岡市 住宅都市局 地域まちづくり推進部 都市景観室

TEL : 092-711-4589 FAX : 092-733-5590

E-MAIL : toshikeikan.HUPB@city.fukuoka.lg.jp